

## 春・夏・秋・冬

ウィーンが一番美しいのは5月。モーツァルトやシューベルトの歌曲の中には5月の美しさを歌ったものがいくつもある。

だが春の到来まで、ウィーンの人々は辛抱強く待たなければなら



市立公園をわがもの顔に歩きまわる孔雀

ない。枝の蕾がふくらみはじめるのは、ようやく4月にはいつてからのことだ。

しかしその後の自然の変化は素晴らしい。

5月にはいると、ある日突然のように花という花が咲き乱れる。重いコートと分厚い手袋からもようやく解放され、花粉アレルギー症の人には気の毒ながら「生きていてよかった」とさえ思えるような変化である。

こんな5月から6月にかけて、ウィーンでは音楽祭が催される。

ウィーン国立歌劇場



オペラやコンサートに限らず世界中から名手が集まり、最高峰の芸術を連日披露する。チケットは同じものを日本で聴くより安いとはいえ、オペラなどを良い席で楽しむには、やはりそれなりの出費は覚悟しなければならぬ。

7月と8月は芸術に関してはシーズンオフとなる。

数年前までこの期間中にウィーンで「音楽の都」の片鱗に触れることは困難だった。しかしこれでは世界有数の観光国オーストリアの首都ウィーンの面目が立たぬ、





春先の公園、遠景はウィーン市庁舎





新緑の季節をむかえたグリーン通り



夏が訪れる



落ち葉の季節



真冬の情景



と、昨今はかなりの規模のコンサートが催されるようになった。年間を通じて公演されるミュージカルも見逃せない。

夏のウイーンで爽快なのはホイリゲだ。日も長いし、一日動き回った後に飲む冷えたワインはのど越しも快く、「ああ、こんな街に一生いられる人はいいなあ」と切実に感じられる一瞬だ。

日中は市内の屋外プールがにぎわう。ウイーンの市営プールでは女性のトップレスが許可されており、世の男性諸氏にとっては目の保養にもなる。ただし、あつ、と振り向きたくなるような美人は「タダでは見せぬぞよ」とばかりに防備万端のことが多い。

9月には新しい音楽シーズンが始まり、国立歌劇場などでも1日から連日の公演が開始される。

11月には木の葉も散り、再び厳しい冬の到来だ。

ウイーンの冬は厳しい。気温が冷凍庫の中より寒い零下20度ぐらいまで下がることも珍しくない。木々には緑のかけらもなく、すべてが灰色の世界となる。

さしあたっての楽しみはクリスマス。しかしクリスマスはヨーロッパでは家族で集まるお祝いなので、単身の旅行者にとってはあまりお勧めではない。